

本邦「髄膜および中枢神経系の結核」 年令階級別死亡率性比の研究

東京女子医科大学衛生学教室 (主任 吉岡博人教授)

明 石 み 代
アカ シ ヨ

(受付 昭和 35 年 9 月 7 日)

緒 言

さきの研究¹⁾において著者は「全結核」および「臓器別結核」死亡率性比の年次の観察を全年令について行なった。ついで「全結核」死亡率性比を年令階級別に分析した²⁾。さらにこれを臓器別に分析して、すでに「呼吸器系の結核」¹⁰⁾と「腸および腹膜の結核」¹¹⁾について報告した。本報では「髄膜および中枢神経系の結核」(死因番号: 明治32~41年13, 明治42~昭和7年中分類14, 昭和8~18年小分類24, 昭和22~24年14, 昭和25~30年基本分類010)の年階級別死亡率と死亡率性比の年次の推移を観察する。

資料および研究方法

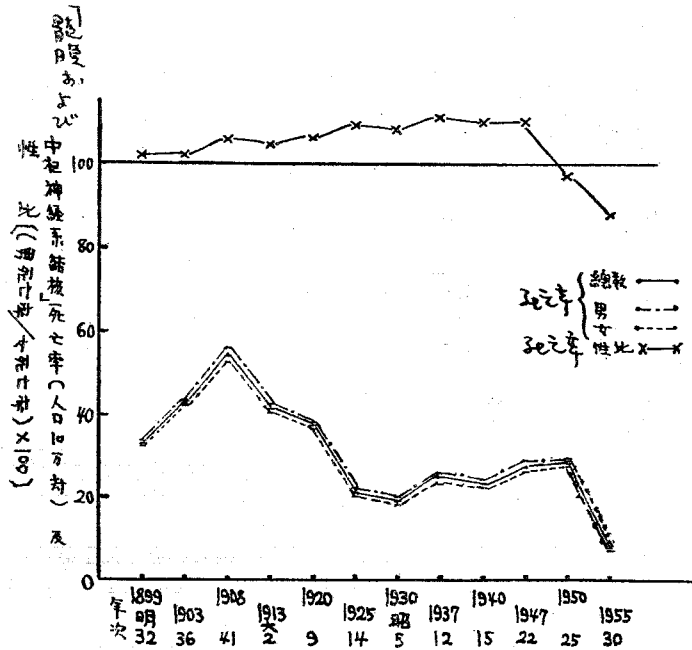
資料: 先報と同じ。

研究方法: 明治32年より昭和30年にいたる57年間より国調査年度における「髄膜および中枢神経系の結核」死亡率を、性別および年令5才階級別に求め、ついでこれの性比を算出し、両者の年次の推移を観察した。しかし昭和10年は分類の方法が違うために使用できないので、その代わりに昭和12年の死亡数を用いた。

$$\text{性比} = (\text{男子死亡率} / \text{女子死亡率}) \times 100$$

研究の結果

I. 「髄膜および中枢神経系の結核」性別年令階級別



第1図 「髄膜および中枢神経系の結核」性別年令階級別死亡率及死亡率性比 (0~4才)

Miyo AKASHI (Department of Hygiene, Tokyo Women's Medical College): Studies on the sex ratio of age specific death-rates from tuberculosis of meninges and the central nervous system in Japan.

死亡率および死亡率性比の年次的推移

1. 0~4才 (第1図, 末尾の付表, 以下同様)

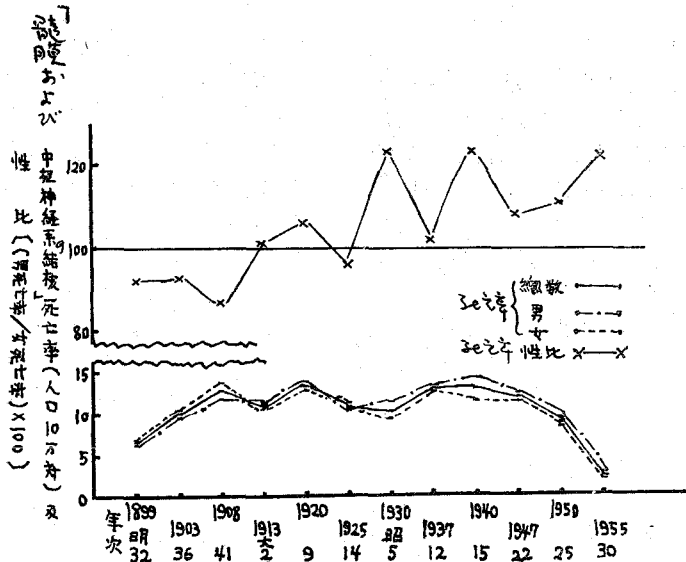
死亡率(人口10万対, 以下同様)は明治32年に男33.0, 女32.3でわずかに男子が高い。以後男女ともに上昇し, 明治41年に全期間中の最高値男子56.3, 子女52.9を示す。ついで男女ともに昭和5年まで下降し, 同12年から同25年までは多少の起伏はあるが停滞し, 以後急下降して昭和30年に全期間中の最低値男7.6, 女8.6を示す。昭和25年以降は女子が男子より高い。

性比は明治32年に102.2で, 以後死亡率昇降に関係なく徐々に上昇し, 昭和12年に全期間中の最高値111.9

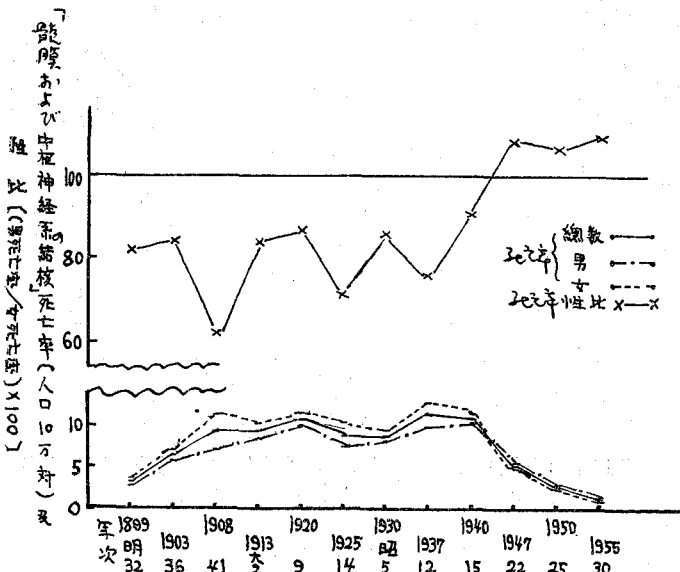
を示す。以後110台で停滞するが, 昭和25年に急下降して始めて100以下を示し, 昭和30年に全期間中の最低値88.4を示す。

2. 5~9才 (第2図)

死亡率は明治32年に男6.3, 女6.8でわずかに女子が高い。以後男子は大正9年まで女子は明治41年まで上昇し, 女子は全期間中の最高値14.0を示す。男子は大正14年に一時下降の後上昇し, 昭和15年に全期間中の最高値14.6を示し, 以後は下降する。女子はわずかの昇降をつづけるが, 昭和12年以降は下降する。戦後は男女ともに急下降し, 昭和30年に全期間中の最低値男2.7, 女2.2を



第2図 「髄膜および中枢神経系の結核」性別年齢階級死亡率及死亡率性比 (5~9才)



第3図 「髄膜および中枢神経系結核」性別年齢階級死亡率及死亡率性比 (10~14才)

示す。

性比は明治32年に92.6で低く、明治41年に全期間中の最低値87.1を示し、大正2年に始めて100をこえる。以後大正14年に一時100以下を示すが、その後は死亡率とともに上昇して昭和15年に全期間中の最高値123.8を示す。以後一時下降するが戦後は死亡率に逆行して上昇し120台に戻る。

3. 10~14 (第3図)

死亡率は明治32年に男2.8, 女3.4で女子が高い。以後男女ともに大正9年まで上昇し、ついで男子は大正14年の一時下降の後上昇して昭和15年に全期間中の最高値10.5を示し、女子は昭和5年まで下降の後上昇して昭和12年に全期間中の最高値13.0を示す。以後は男女ともに下降し、昭和30年に全期間中の最低値男1.2, 女1.1を示す。昭和22年以降は男子が女子より高い。

性比は明治32年に82.4で、明治、大正より昭和の前半までは死亡率の昇降にかかわらず低く、明治41年62.8は全期間中の最低値である。昭和15年に始めて90をこえ死亡率下降に逆行して上昇し、昭和22年に始めて100をこえ、昭和30年に全期間中の最高値109.0を示す。

4. 15~19才 (第4図)

死亡率は明治32年に男2.6, 女4.0で、女子は男子の1.5倍強高い。以後男女ともに大正9年まで上昇し、ついで男子は大正14年の一時下降の後上昇して昭和15年に全期間中の最高値23.0を示す。女子は昭和5年まで下降の後上昇し、昭和12年に全期間中の最高値20.5を示す。以後は男女ともに下降して昭和30年に全期間中の最低値男

0.9, 女1.4を示す。明治41年より昭和5年まで、および昭和22年以降は女子が男子より高い。

性比は明治32年に65.0で、以後明治36年を除く明治から大正は低く、ついで徐々に上昇する。昭和12, 15年は死亡率とともに急上昇して100をこえ、昭和15年に全期間中の最高値115.6を示す。以後は死亡率とともに下降し、昭和30年に全期間中の最低値64.3を示す。全期間を通じて明治36, 昭和12, 同15年のみ100をこえる。

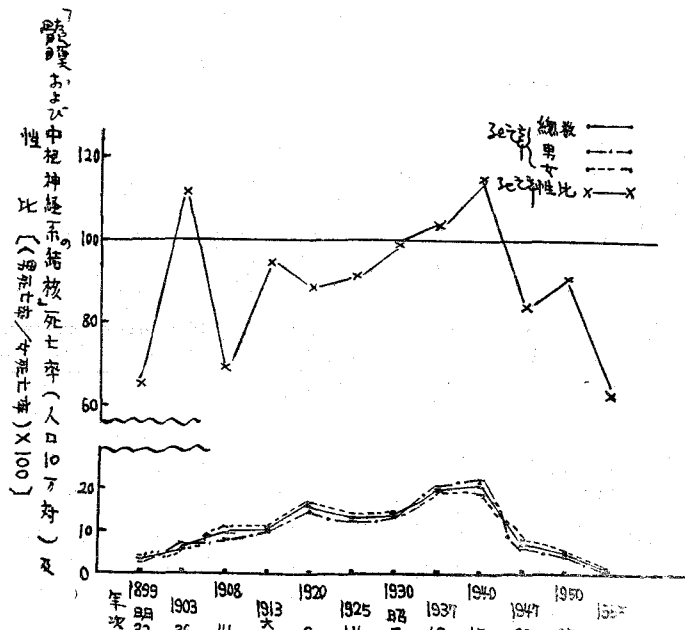
5. 20~24才 (第5図)

死亡率は明治32年に男3.6, 女3.8で女子がわずかに高い。以後男女ともに大正9年まで上昇し、大正14年の一時下降の後再上昇して、昭和15年に全期間中の最高値男39.1, 女18.7を示す。以後男女ともに急下降して昭和30年に全期間中の最低値男2.1, 女2.2を示す。明治32, 36年および昭和25年以降は女子が男子より高い。

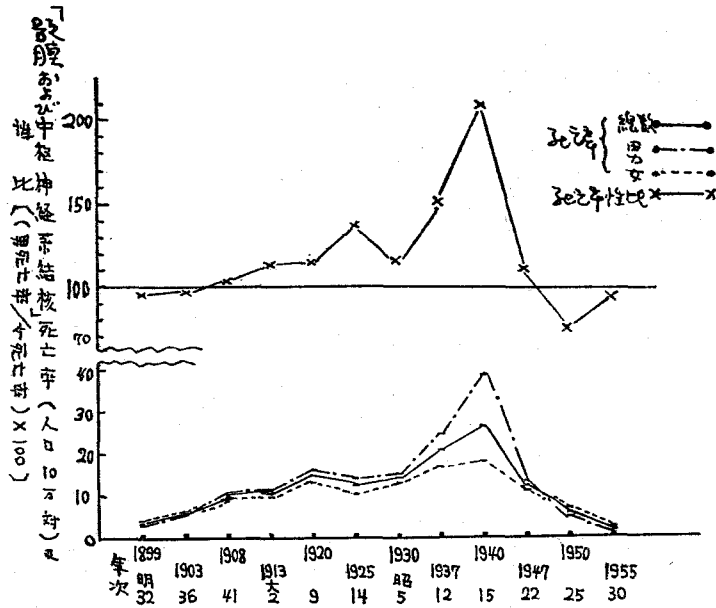
性比は明治32年に94.7で、以後死亡率昇降にかかわらず上昇する。明治41年に始めて100をこえ、昭和12年に150をこえ、昭和15年に全期間中の最高値209.1を示す。以後は死亡率とともに急下降し、昭和25年に全期間中の最低値74.0を示す。昭和25年以降は100以下を示す。

6. 25~29才 (第6図)

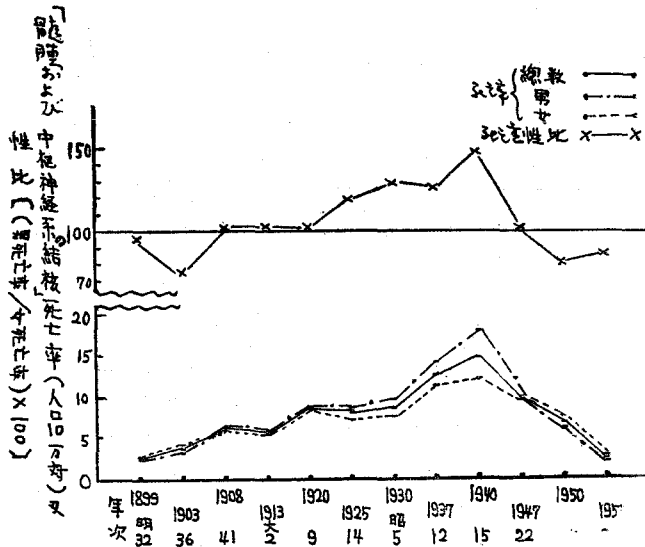
死亡率は明治32年に男2.6, 女2.7で女子がわずかに高い。以後男女ともに明治41年まで上昇し、大正2年に下降し、同9年に上昇し、同14年に下降する。以後は上昇して昭和15年に全期間中の最高値男18.0, 女12.1を示す。以後男女ともに下降し、昭和30年に全期間中の最低値男2.1, 女2.4を示す。明治32, 36年および昭和25年以



第4図 「髄膜および中枢神経系の結核」性別年齢階級別死亡率及死亡率性比 (15~19才)



第5図 「髄膜および中枢神経系の結核」性別年齢階級別死亡率及死亡率性比 (20~24才)



第6図 「髄膜および中枢神経系の結核」性別年齢階級別死亡率及死亡率性比 (25~29才)

降は女子が男子より高い。

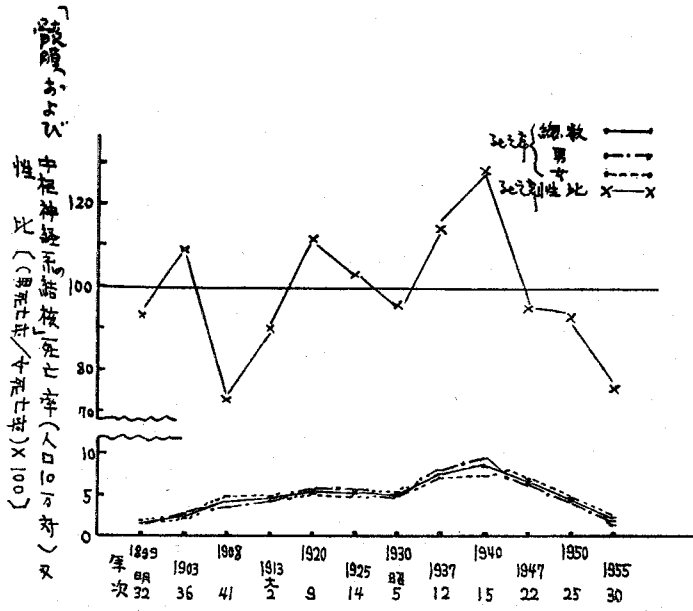
性比は明治32年に96.3で、ついで下降し明治36年に全期間中の最低値75.6を示す。以後上昇して明治41年に始めて100をこえ、さらに死亡率昇降にかかわらず上昇し、昭和15年に全期間中の最高値148.8を示す。以後は死亡率とともに下降し、昭和25年以降は100以下を示す。

7. 30~34才 (第7図)

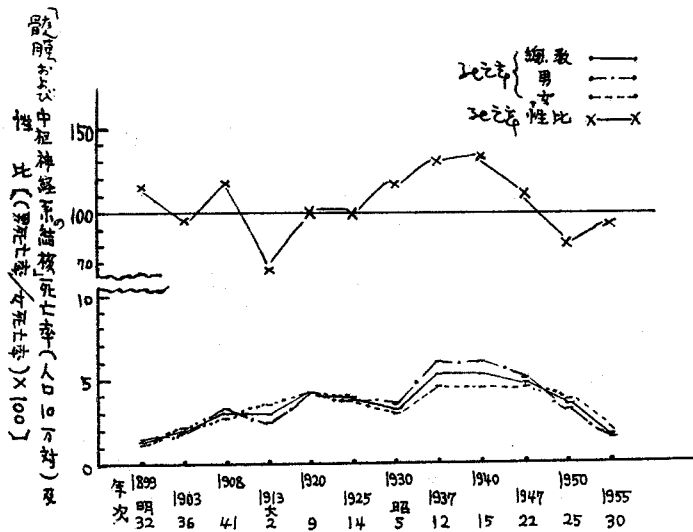
死亡率は明治32年に男1.5, 女1.6で女子がわずかに高

く、男女ともに全期間中の最低値を示す。以後男子は大正9年まで、女子は明治41年まで上昇の後昭和5年まで停滞し、ついで上昇して昭和15年に全期間中の最高値男9.4, 女7.3を示す。以後男女ともに下降する。明治より大正2年まではおおむね女子が高く、昭和22年以降も女子が高い。

性比は明治32年に93.8で、同41年に全期間中の最低値73.5を示す。明治36年を除く明治年代より大正2年まで低く、大正6年より高くなる。以後死亡率停滞時代は性



第7図 「髄膜および中枢神経系の結核」性別年齢階級別死亡率及死亡率性比 (30~34才)



第8図 「髄膜および中枢神経系の結核」性別年齢階級別死亡率及死亡率性比 (35~39才)

比下降するが、死亡率上昇とともに性比上昇して、昭和15年に最高値128.8を示す。以後死亡率とともに下降し、昭和22年以降は100以下を示す。

8. 35~39才 (第8図)

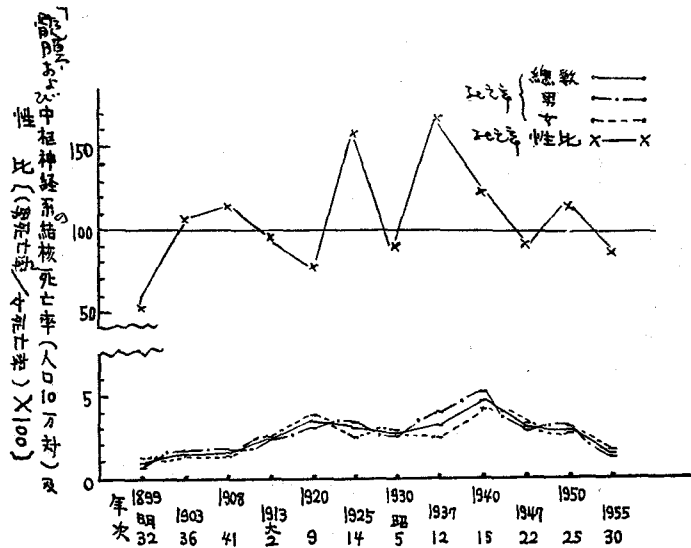
死亡率は明治32年に全期間中の最低値男1.5, 女1.3を示す。以後男子は明治41年まで女子は大正9年まで上昇し、ついで多少の起伏はあるが男女ともに上昇し、昭和12年に全期間中の最高値男6.0, 女4.6を示す。以後男子は昭和15年まで女子は昭和22年まで停滞して後下降し、男子は昭和15年に最低値と同値を示す。昭和25年以降は

女子が男子より高い。

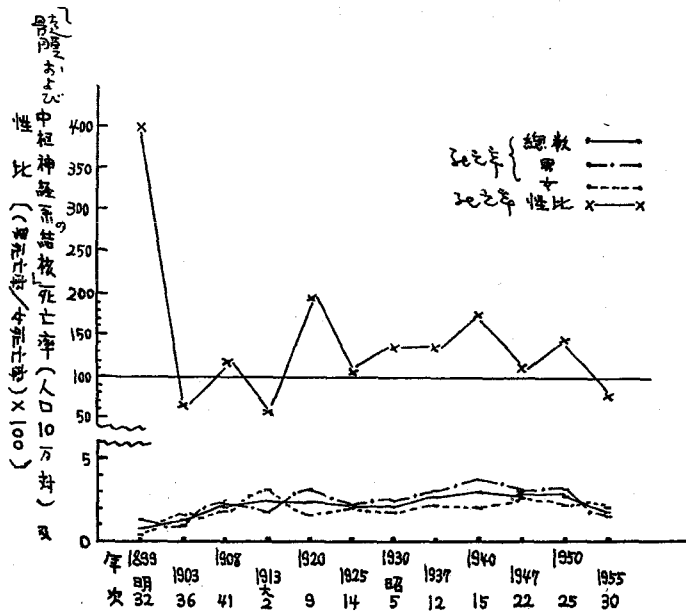
性比は明治32年に115.4で、以後明治より大正前半まで死亡率上昇にかかわらず昇降するが、大正9年以降は死亡率とともに上昇し、昭和15年に全期間中の最高値133.3を示す。以後死亡率とともに降下し、昭和25年に全期間中の最低値86.5を示す。昭和25年以降は100以下を示す。

9. 40~44才 (第9図)

死亡率は明治32年に全期間中の最低値男0.7, 女1.3を示し、女子が男子の1.9倍弱高い。以後男子は大正14年まで女子は大正9年まで上昇し、ついで一時下降の後上



第9図 「髄膜および中枢神経系の結核」性別年令階級別死亡率及死亡率性比 (40~44才)



第10図 「髄膜および中枢神経系の結核」性別年令階級別死亡率及死亡率性比 (45~49才)

昇して、昭和15年に全期間中の最高値男5.2、女4.2を示す。以後は男女ともに下降する。この年令階級では男女が交叉して経過するが、おおむね死亡率上昇の時は男子が高く、死亡率下降の時は女子が高い。

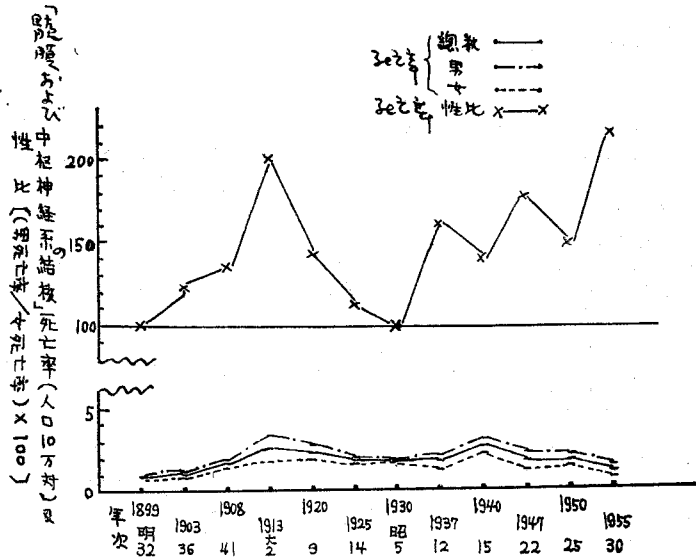
性比は明治32年に全期間中の最低値53.8を示し、以後おおむね死亡率昇降に逆行する。昭和12年に最高値166.7を示して後は、起伏をともなつて下降する。

10. 45~49才 (第10図)

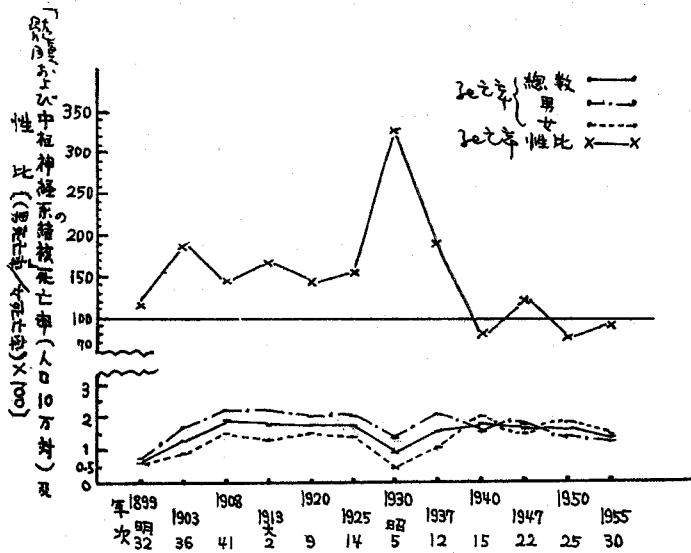
死亡率は明治32年に男1.2、女0.3で男子は女子の4倍

高く、女子は全期間中の最低値を示す。以後男子は明治36年に最低値1.0を示して後上昇し、女子は大正2年まで上昇して全期間中の最高値3.1を示す。以後男子は多少の起伏はあるが上昇して、昭和15年に全期間中の最高値3.7を示して後下降する。女子は多少の昇降はあるが停滞して経過するが昭和25年以降は下降する。この年令階級では死亡率昇降の幅は少なく、明治36、大正2、昭和30年のみが女子が男子より高い。

性比は明治32年に最高値400を示し、とくにはなれて



第11図 「髄膜および中枢神経系の結核」性別年齢階級別死亡率及死亡率性比 (50~54才)



第12図 「髄膜および中枢神経系の結核」性別年齢階級別死亡率及死亡率性比 (55~59才)

高い。以後大正2年まで100の線の上下に振幅50位の出入をつづけるが、大正9年より昭和25年までは100以上でおおむね死亡率と併行する。昭和30年に死亡率とともに下降して100以下を示す。この年齢階級は性比昇降の幅が大きい。

11. 50~54才 (第11図)

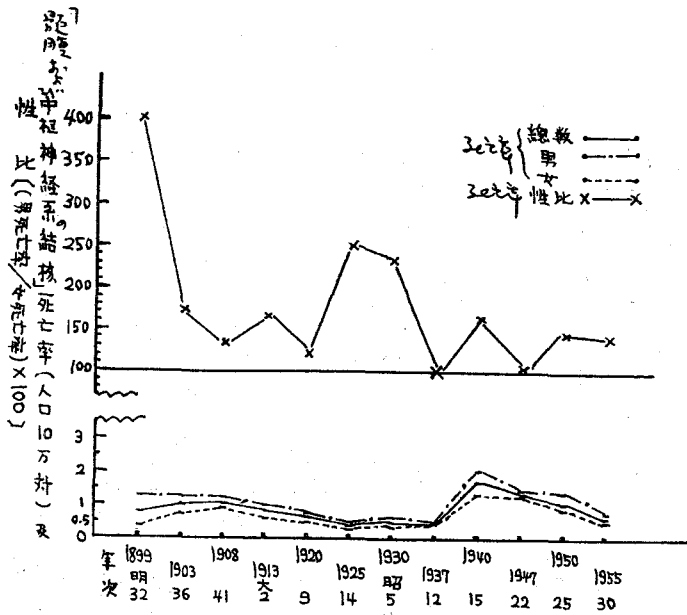
死亡率は明治32年に男女ともに0.9で、男子は全期間中の最低値を示す。以後男女ともに上昇し、大正2年に男子は全期間中の最高値3.4を示す。女子は大正9年まで上昇し、ついで一時下降の後上昇して、昭和15年に全期間中の最高値2.2を示す。男子も一時下降の後昭和15

年まで上昇する。以後は男女ともに下降し、女子は昭和30年に最低値0.7を示す。この年齢階級では死亡率昇降の幅は少なく、終始男子が女子より高い。

性比は明治32年に最低値100を示し、以後死亡率とともに大正2年まで上昇し、ついで死亡率とともに昭和5年まで下降して再び100を示す。以後は死亡率昇降にかかわらず多少の起伏はあるが上昇して、昭和30年に全期間中の最高値214.3を示す。

12. 55~59才 (第12図)

死亡率は明治32年に男0.7、女0.6で男子は最低値を示す。以後男女ともに明治41年まで上昇して男子は最高値



第13図 「髄膜および中枢神経系の結核」性別年令階級別死亡率及死亡率性比(60才以上)

2.2 を示し、ついで大正14年まで停滞する。以後下降して昭和5年に女子は最低値0.4を示し、ついで上昇し昭和15年に女子は最高値2.0を示す。男子は昭和15年以降女子は同22年以降は下降する。この年令階級では死亡率昇降の幅は少ない。昭和15, 25, 30年以外は男子が女子より高い。

性比は明治32年に116.7で、以後死亡率とともに上昇し、死亡率停滞時には性比は多少昇降して経過するが、昭和5年に死亡率下降に逆行して上昇し、最高値325.0を示す。以後は下降し、とくに昭和25年以降は100以下を示す。

13. 60才以上(第13図)

死亡率は明治32年に男1.2, 女0.3で、男子は女子の4倍高い。以後男子は大正14年まで下降して最低値0.5を示し、ついで上昇して昭和15年に最高値2.1を示す。女子は明治41年まで上昇の後下降して、大正14年に最低値0.2を示し、ついで上昇して昭和15年に最高値1.3を示す。以後男女ともに下降する。この年令階級では死亡率昇降の幅は少なく、終始男子が女子より高い。

性比は明治32年に最高値400を示す。以後女子死亡率の上昇とともに性比は下降する。多少の昇降はあるが下降しつつけて昭和12年に最低値100を示し、以後は再び上昇する。

Ⅱ. 「髄膜および中枢神経系の結核」年令階級別死亡率性比の相互比較

つぎに「髄膜および中枢神経系の結核」年令階級別死亡率性比の相互比較のために、各年令階級別死亡率性比

の年次変化を同一図上に描いて検討したい。

さきに「全結核」および「呼吸器系の結核」年令階級別死亡率性比においては、性比100の線を境界としてその上下に分けたところ、30才未満および30才以上の2群に一活し得た。本報「髄膜および中枢神経系の結核」年令階級別死亡率性比においては、前報にならつて、便宜上0~29才を一括して第14図aに、30才以上を一括して第14図bに示した。

a. 0~29才(第14図a)

0~29才の階級のうちに、0~4才は昭和25年を除き100以上を示す。とくに昭和12年より22年までは110以上で高い。

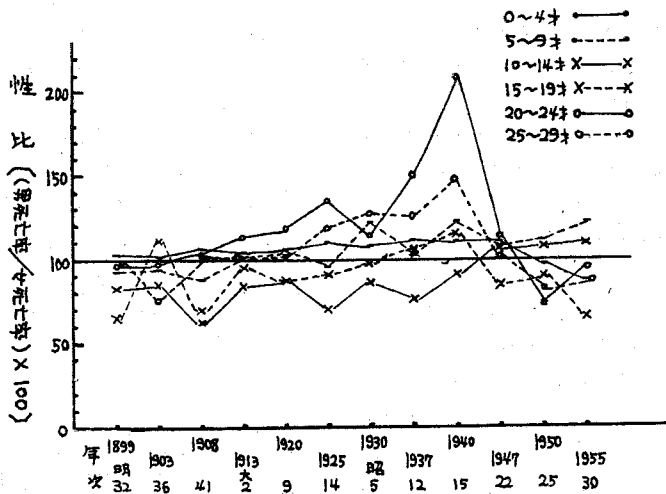
5~9才は明治年代は100以下で低く、大正2年以降はおおむね100以上で、120台までの間で動揺して経過し、戦後は上昇する。

10~14才は昭和15年までは100以下で動揺して経過し、戦後は100以上で上昇する。

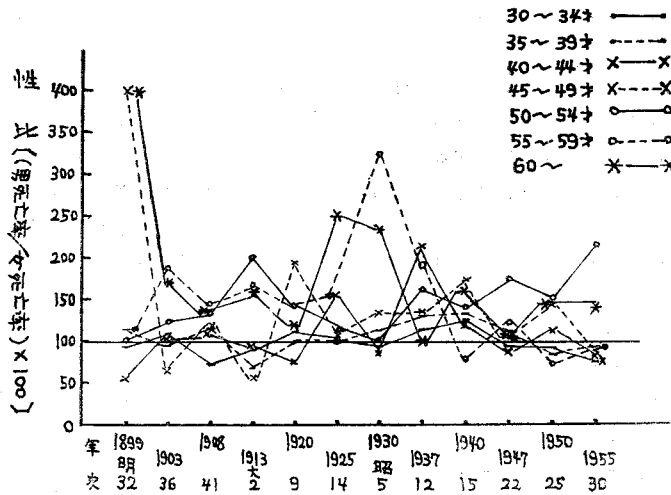
15~19才は明治36年を除くと、昭和5年までは100以下で動揺して経過し、昭和12, 15年のみ上昇して100以上を示すが、戦後は100以下で下降する。

20~24才と25~29才の2階級は近似の経過をとる。明治36年までは100以下で低く、明治41年以降は100をこえて年次的に上昇し、昭和15年にとくに高い峰を示す。以後下降し、とくに昭和25年以降は100以下で下降する。

5~14才の階級は戦後上昇し、0~4, 15~29才の階級は戦後下降する。



第14図 a 「髄膜および中枢神経系の結核」年齢階級別死亡率性比（0才～29才）



第14図 b 「髄膜および中枢神経系の結核」年齢階級別死亡率性比（30才以上）

b. 30才以上（第14図 b）

30～34, 35～39才の階級は近似の経過をとる。明治より昭和5年までは100の線の上下に動揺して経過し、以後上昇して昭和15年に峯をつくり、以後下降して、30～34才では戦後100以下を示し、35～39才では昭和25年以降100以下を示す。

40～44才は100の線の上下に動揺して経過し、昭和30年に100以下に下降する。

45～49才は明治32年に400で著明に高いが、以後はおおむね100以上で動揺して経過し、昭和30年に100以下に下降する。

50～59才は明治32年および昭和5年に100を示し、その間は大正2年を頂点とする峯をつくる。以後はおおむ

ね150以上で動揺して経過し、昭和30年に上昇する。

55～59才は昭和15年および昭和25年以降をのぞくと100以上で高く、昭和5年に峯をつくる。昭和25年以降は下降する。

60才以上の階級は昭和12年に100を示すのみで、他は100以上で高く、動揺して経過する。明治32年のみ400で例外的に高い。

c. a 群と b 群のまとめ

以上の如く全期間を通じて性比の高さおよび角度近似の経過をとるのは、20～24才と25～29才、30～34才と35～39才の4階級のみで、いずれも戦前は動揺して経過し、戦後は100以下を示す。

0～4才および20才以上の各年齢階級は性比100以

上で経過し、40～49才は昭和30年に、0～4、20～39、55～59才は昭和25年以降100以下を示すが、その他の階級は100以下を示すことはない。

10～14才は昭和15年まで、15～19才は昭和5年までと戦後に、5～9才は明治年代のみ、性比100以下を示す。

総合的考察および結論

明治32年より昭和30年にいたる57年間より、国勢調査年度における「髄膜および中枢神経系の結核」性別死亡率および死亡率性比を、各年令5才階級別に観察した結果を総合すれば、つぎのことが看取される。

I. 「髄膜および中枢神経系の結核」性別年令階級別死亡率

1. 0～4才では明治年代は高く、明治41年に死亡率上昇による第1峯を、昭和25年に第2峯を示し、昭和30年に下降する。この年令階級は全年令階級中で死亡率がとくにはなれて高い。即ち他の階級のおおむね5～100倍を示す。昭和22年までは男子死亡率が女子より高く、昭和25年以降は女子が男子より高い。

2. 5～9才は明治41年より昭和22年まで丘陵状に高く、昭和25年以降は下降する。死亡率の高さを0～4才と比較すれば、おおむね0～4才の1/5で終始する。明治は女子死亡率が男子より高く、大正以降は男子が女子より高い。

3. 10～14才は明治41年より昭和15年まで丘陵状に高く、戦後は急下降する。0～4才のおおむね1/7の高さで終始する。昭和15年までは女子死亡率が男子より高く、戦後は男子が女子より高い。

4. 15～19才は明治41年より高く、昭和15年まで上昇し、戦後は急下降する。0～4才のおおむね、死亡率上昇期は1/5、下降期は1/8を示す。明治36、昭和12、15年のみ男子死亡率が高く、他はすべて女子が男子より高い。

5. 20～24、25～29才の2階級は明治41年より死亡率上昇し、大正9年に第1峯をつくり、以後一時下降の後、男子は急上昇して昭和15年に鋭い第2を示し、女子は昭和12、15の段丘状の第2峯を示す。以後男女共に急下降する。死亡率の高さは2階級ともに、明治年代は0～4才のおおむね1/10、以後、大正は20～24才は1/5、25～29才は1/10を示し、昭和の上昇期には20～24才の男子は0～4才より高く、女子と25～29才はやゝ低い。戦後はおおむね0～4才の1/4を示す。2階級ともに明治41年より昭和22年までは男子死亡率が女子より高い。

6. 30～34、35～39才の2階級は明治41年に死亡率上昇して、昭和5年まで丘陵状につづき昭和12、15年の峯に移行し、以後下降する。死亡率の高さは2階級ともに、明治はおおむね0～4才の1/20、大正は1/10を示し、昭和の上昇期には30～34才は1/3、35～39才の男子

は1/4、35～39才の女子は1/5を示す。戦後は2階級ともに1/4を示す。2階級ともにおおむね男子死亡率が女子より高く、30～34才では戦後、35～39才では昭和25年以降は女子が男子より高い。

7. 40～44才は大正2年より死亡率上昇し、丘陵状につづき昭和15年の峯に移行し、以後緩徐に下降する。死亡率の高さは明治はおおむね0～4才の1/30、大正は1/10、昭和の上昇期には1/5、戦後は1/10～1/5を示す。全期間を通じて男女が交叉をくりかえして経過するが、おおむね死亡率上昇の時は男子が高く、死亡率下降の時は女子が高い。

8. 45～49、50～54才の2階級は、明治41年より死亡率上昇し丘陵状に昭和25年までつづき、以後緩徐に下降する。死亡率の高さは、明治36年まではおおむね0～4才の1/30～1/40、以後昭和25年までは1/10～1/15、昭和30年に1/4を示す。45～49才では明治36、大正2、昭和30年以外は男子死亡率が女子よりはるかに高く、50～54才は明治32、昭和5年の男女同率以外は男子が女子よりはるかに高い。

9. 55～59才、60才以上の2階級では、死亡率は明治41年まで上昇気味で、以後昭和5年まで下降の後には上昇し、55～59才は昭和12、15年の低い峯を、60才以上は昭和15、22年の低い峯を示す。以後2階級ともにわずかに下降する。55～59才の死亡率の高さは、おおむね0～4才の、明治では男子は1/30～1/40、女子は1/50を示し、大正より昭和12年までは男子は1/20～1/15、女子は1/30～1/20を示す。以後昭和25年までは男女ともに1/15、昭和30年に1/5を示す。60才以上では明治より大正2年まではおおむね男子は1/30～1/50、女子は1/100～1/60を示し、大正9年から昭和12年までは男子は1/50、女子は1/100～1/80を示す。以後昭和25年までは男女ともに1/25～1/20を示し、昭和30年に男子は1/10、女子は1/15を示す。55～59才では昭和15、25、30年以外は男子死亡率が女子よりはるかに高く、60才以上では昭和12年の男女同率以外は男子が女子よりはるかに高い。

II. 「髄膜および中枢神経系の結核」年令階級別死亡率性比の相互比較

さきに「全結核」および「呼吸器系の結核」年令階級別死亡率性比において、30才未満および30才以上の2群に一括して報告した。本報「髄膜および中枢神経系の結核」年令階級別死亡率性比においては、便宜上、前報にならつて0～29才をa群とし、30才以上をb群として示す。

a. 0～29才

0～4は昭和25年以降を除き性比100以上を示す。とくに昭和12年より22年までは110以上で高い。

5～9才は明治は100以下で低く、大正2年以降はおおむね100～120で、戦後上昇する。

10~14才は昭和15年までは100以下で、戦後は100以上で上昇する。

15~19才は明治36, 昭12, 15年のみ100以上を示し、それ以外は100以下で、戦後は下降する。

20~24, 25~29才の2階級は近似の経過をとる。明治36年までと昭和25年以降は100以下を示し、それ以外は100以上を示し、とくに昭和15年に高い。戦後は下降する。

5~14才の各階級は戦後性比上昇し、0~4才, 15~29才の各階級は戦後性比下降する。

b. 30才以上

30~34, 35~39才の2階級は近似の経過をとる。昭和5月までは100の上下に動揺して経過し、昭和15年に100よりとくに高く、戦後下降する。30~34才は戦後、35~39才は昭和25年以降は100を示す。

40~44才は100の上下に動揺して経過し、昭和30年に100以下に下降する。

45~49才は明治32年に400で極度に高いが、以後はおおむね100以上で、昭和30年100に以下に下降する。

50~54才は明治32年および昭和5年に100を示し、それ以外は100以上で、とくに昭和10年以降は150以上で、昭和30年に上昇する。

55~59才は昭和15, 25, 30年以外は100以上でとくに高く、戦後は下降する。

60才以上の階級は昭和12年に100を示すのみで他は100以上でとくに高く、戦後上昇する。明治32年のみ400で例外的に高い。

c. a群とb群のまとめ

以上の如く全期間を通じて性比の高さおよび角度近似の経過をとるのは、20~24才と25~29才, 30~34才と35~39才の4級のみである。

0~4才および20才以上の各年令階級は性比100以上で経過し、40~49才は昭和30年に、0~4, 20~39, 55~59才は昭和25年以降に、100以上を示すのみである。

10~14才は昭和15年まで、15~19才は昭和5年までと戦後、5~9才は明治年代のみ性比100以下を示す。

以上の如く死亡率は社会的条件によつて昇降するが、30才未満では昇降の幅が30才以上よりも大きく、とくに乳幼児と青年男子の昇降は著明で、かつ社会的条件改善の影響は早く大きく現われる。

10~19才では女子死亡が男子より多いが、他の年令階級では男子死亡が女子より多い。とくに0~4才では性比の昇降は少なく、常に男子死亡が女子より多い状態が近年までつづいた。

すなわち、「髄膜および中枢神経系の結核」死亡は、死亡率の昇降にかかわらず、青少年を除いては男子死亡が女子より多く、死亡率は年令階級の若いほど高いが、近年は社会的条件改善の影響を著明にうけて死亡率激減し、0~4才と15~49才では男子死亡率が女子より低くなり、5~14才と50才以上では女子死亡率が男子より低くなった。

稿を終るに臨み、恩師吉岡博人教授および諸岡妙子助教の御懇篤な御指導御校閲を感謝する。

参 考 文 献

- 1) 吉岡博人：日本臨床結核 4 218~224 (昭18)
- 2) 吉岡博人：総合医学 8 685~662 (昭26)
- 3) 吉岡博人：日本医事新報 1489号 24~27 (昭27)
- 4) 諸岡妙子：東京女医大誌 24 81~88 (昭29)
- 5) 諸岡妙子, 妻 君代：東京医大誌 25 119~133 (昭30)
- 6) 吉岡博人他：日本医事新報 1667号 22~27 (昭31)
- 7) 諸岡妙子, 藤屋スエ：東京医大誌 29 127~132 (1955)
- 8) 明石み代：東京女大誌 30 2284~2290 (昭35)
- 9) 明石み代：東女医大誌 30 2297~2310 (昭35)
- 10) 明石み代：東女医大誌 30 (昭35)
- 11) 明石み代：東女医大誌 30 (昭35)

付表「髄膜および中枢神経結の結核」性別年令階級別死亡率(人口10万対)および死亡率性比((男子死亡率/女子死亡率)×100)

年次			1899	1903	1908	1913	1920	1925	1930	1937	1940	1947	1950	1955
			明治32	明治36	明治41	大正2	大正9	大正14	昭和5	昭和12	昭和15	昭和22	昭和25	昭和30
0~4才	死亡率	総数	32.7	42.4	54.6	41.6	37.2	21.2	19.1	24.9	23.4	27.7	28.3	8.1
		男	33.0	42.8	56.3	42.5	38.3	22.2	19.9	26.3	24.5	29.1	28.0	7.6
		女	32.3	42.0	52.9	40.8	36.1	20.2	18.3	23.5	22.2	26.4	28.7	8.6
	死亡率性比	102.2	101.9	106.4	104.2	106.1	109.9	108.7	111.9	110.4	110.2	97.6	88.4	
5~9才	死亡率	総数	6.5	10.2	13.1	12.1	13.7	11.0	10.4	13.2	13.3	12.3	8.9	2.5
		男	6.3	9.9	12.2	12.2	14.1	10.8	11.5	13.3	14.6	12.8	9.4	2.7
		女	6.8	10.6	14.0	12.0	13.2	11.2	9.3	13.0	11.8	11.8	8.4	2.2
	死亡率性比	92.6	93.4	87.1	101.7	106.8	96.4	123.7	102.3	123.8	108.5	111.9	122.7	
10~14才	死亡率	総数	3.1	6.3	9.2	9.6	10.9	8.9	8.8	11.4	11.0	5.1	2.7	1.1
		男	2.8	5.8	7.1	8.5	10.2	7.4	8.1	9.9	10.5	5.3	2.8	1.2
		女	3.4	6.9	11.3	10.1	11.6	10.3	9.4	13.0	11.5	4.9	2.6	1.1
	死亡率性比	82.4	84.1	62.8	84.2	87.9	71.8	86.2	76.2	91.3	108.2	107.7	109.0	
15~19才	死亡率	総数	3.3	6.4	9.8	10.7	16.0	14.2	14.2	20.8	21.5	7.6	4.3	1.2
		男	2.6	6.7	8.1	10.4	15.1	13.6	14.2	21.2	23.0	6.9	4.1	0.9
		女	4.0	6.0	11.6	11.0	17.0	14.8	14.3	20.5	19.9	8.2	4.5	1.4
	死亡率性比	65.0	111.7	69.8	94.5	88.8	91.9	99.3	103.4	115.6	84.1	91.1	64.3	
20~24才	死亡率	総数	3.7	5.9	8.8	10.3	15.0	12.9	14.4	21.0	27.5	12.5	6.4	2.2
		男	3.6	5.9	8.9	11.0	16.3	14.8	15.4	25.6	39.1	13.3	5.4	2.1
		女	3.8	6.0	8.6	9.7	13.7	10.9	13.4	17.0	18.7	11.8	7.3	2.2
	死亡率性比	94.7	98.3	103.5	113.4	119.0	135.8	114.9	150.6	209.1	112.7	74.0	95.5	
25~29才	死亡率	総数	2.6	3.6	6.0	5.6	8.7	7.9	8.7	12.7	14.9	9.7	6.8	2.2
		男	2.6	3.1	6.0	5.7	8.9	8.6	9.8	14.2	18.0	9.8	6.1	2.1
		女	2.7	4.1	5.9	5.5	8.6	7.2	7.6	11.2	12.1	9.7	7.5	2.4
	死亡率性比	96.3	75.6	101.7	103.6	103.5	119.4	128.9	126.8	148.8	101.0	81.3	87.5	
30~34才	死亡率	総数	1.5	2.2	4.3	4.2	5.3	5.2	5.0	7.5	8.4	6.8	4.5	1.8
		男	1.5	2.3	3.6	4.0	5.6	5.3	4.9	8.0	9.4	6.6	4.3	1.6
		女	1.6	2.1	4.9	4.4	5.0	5.1	5.1	7.0	7.3	6.9	4.6	2.1
	死亡率性比	93.8	109.5	73.5	90.9	112.0	103.9	96.1	114.3	128.5	95.7	93.5	76.2	
35~39才	死亡率	総数	1.4	2.0	3.1	3.0	4.3	4.0	3.2	5.3	5.3	4.7	3.5	1.6
		男	1.5	2.0	3.3	2.5	4.3	4.0	3.5	6.0	6.0	5.0	3.2	1.5
		女	1.3	2.1	2.8	3.6	4.3	4.0	3.0	4.6	4.5	4.5	3.7	1.6
	死亡率性比	115.4	95.2	117.9	69.4	100.0	100.0	116.7	130.4	133.3	111.1	86.5	93.8	
40~44才	死亡率	総数	1.0	1.6	1.5	2.4	3.4	3.1	2.6	3.2	4.7	3.1	2.9	1.5
		男	0.7	1.6	1.6	2.4	3.0	3.8	2.5	4.0	5.2	2.9	3.1	1.4
		女	1.3	1.5	1.4	2.5	3.8	2.4	2.8	2.4	4.2	3.2	2.7	1.6
	死亡率性比	53.8	106.7	114.3	96.0	78.9	158.3	89.3	166.7	123.8	92.6	114.8	87.5	
45~49才	死亡率	総数	0.8	1.2	2.1	2.4	2.4	2.1	2.1	2.7	2.9	2.9	2.7	1.7
		男	1.2	1.0	2.2	1.8	3.1	2.1	2.4	3.1	3.7	3.1	3.2	1.5
		女	0.3	1.5	1.9	3.1	1.6	2.0	1.8	2.3	2.1	2.8	2.2	1.9
	死亡率性比	400.0	66.7	115.8	58.1	193.7	105.0	133.3	134.8	176.2	110.7	145.5	78.9	
50~54才	死亡率	総数	0.9	1.0	1.7	2.6	2.3	1.7	1.8	1.7	2.6	1.8	1.7	1.1
		男	0.9	1.1	1.9	3.4	2.7	1.8	1.8	2.1	3.1	2.3	2.1	1.5
		女	0.9	0.9	1.4	1.7	1.9	1.6	1.8	1.3	2.2	1.3	1.4	0.7
	死亡率性比	100.0	122.2	135.7	200.0	142.1	112.5	100.0	161.5	140.9	176.9	150.0	214.3	
55~59才	死亡率	総数	0.7	1.3	1.9	1.7	1.7	1.7	0.9	1.6	1.8	1.6	1.6	1.4
		男	0.7	1.7	2.2	2.2	2.0	2.0	1.3	2.1	1.6	1.7	1.4	1.3
		女	0.6	0.9	1.5	1.3	1.4	1.3	0.4	1.1	2.0	1.4	1.8	1.4
	死亡率性比	116.7	188.9	146.7	169.2	142.9	153.8	325.0	190.9	80.0	121.4	77.8	92.9	
60才以上	死亡率	総数	0.7	1.0	1.0	0.8	0.6	0.4	0.5	0.5	1.6	1.3	1.0	0.6
		男	1.2	1.2	1.2	1.0	0.7	0.5	0.7	0.5	2.1	1.4	1.3	0.7
		女	0.3	0.7	0.9	0.6	0.5	0.2	0.3	0.5	1.3	1.3	0.9	0.5
	死亡率性比	400.0	171.4	133.3	166.7	120.0	250.0	233.3	100.0	161.5	107.7	144.4	140.0	